

オムロン株式会社
平成 24 年(2012 年)3 月期 第 3 四半期決算
投資家様向け説明会 質疑応答
(2012 年 1 月 27 日、東京)

- Q1: 戦略投資の減少はあるが、販管費・R&D費は年間で減少していない。今後削減の可能性はあるのか？
A1: 年間の見込みは、現状の見通しどおり。現時点では費用として発生する見込み。
- Q2: 生産調整のIAB・EMCの内訳は？また、EMCの生産調整はIAB向け商品のみ調整するのか？
A2: 個別の内訳は開示できない。EMCの生産調整はIAB向けだけでなく、EMC顧客向けもある。
- Q3: IABの受注状況は足元でどうか？
A3: 受注額は開示しないが、売上の見込みを見ていただくと状況は理解できると考える。国内は回復傾向。欧州、中華圏は弱含み。
- Q4: IABの12月の足元状況を教えて欲しい。
A4: 日本は半導体が回復傾向にあり12月単月の売上は前年比では増加している。落ち込んでいるのは中華圏と欧州。
- Q5: 消去・調整の営業利益が前回見通しよりも減少している要因は？
A5: 年金の会計変更による減少が大きい。その他の経費等も前回見通しより増えているものがある。
- Q6: 戦略投資の3Qまでの実績は？
A6: 開示していない。
- Q7: 中国でのIABの競争力は何か？技術力、生産力などの切り口でコメントがほしい。
A7: 台湾や韓国勢に対しては、品質・品揃え・お客様へのサポート力などが上回っていると認識している。価格については、今後、特に新興国向けの価格対応力のある商品もラインアップを強化し、対抗力をつけていく。
- Q8: 在庫金額は上がっているが、部材か製品かどちらの在庫が上がっているのか？また、完成品は需要が落ちてきているのであれば、積み増す必要がなかったのでは？
A8: 震災対応で、基本的には製品も部材も両方の在庫が増えている。12月の市場環境の急変を受けて、需要は急激に落ち込んだ。そのため、結果的に在庫が積み上がったものと認識している。

- Q9: IABの中国の流通在庫はどのような状況か？また、いつぐらいまで在庫調整が続くのか？
- A9: 代理店の在庫月数は増えていると思われる。自社・流通の在庫はどちらも3月末ぐらいで適正在庫になると見ている。
- Q10: 中国のIABの最終需要は年明けに好転しているのか？
- A10: 4Qは現状が続くと見ており、好転はしない。特に中小企業は元気になっている状況ではない。
- Q11: 戦略投資の期中での費用発生時期はどう考えればいいのか？
- A11: 上期は震災の影響もあり、あまり使っていなかった。ただし、人件費となる人事採用などは行ってきた。M&Aは別だが、経費等については下期偏重になっている。
- Q12: 在庫については、廃棄や引当てをせずに汎用的に他に活用できないのか？
- A12: お客様の仕様によっては特殊なものもあるので他に転用が難しい部品もある。実質的には引当金を社内のルールで会計処理するものなので、すぐに廃棄するものではない。
- Q13: 工場の稼働率はどの程度か？繁忙時と比べてどうか。
- A13: 稼働率の詳細はお伝えできない。震災後の4月・5月に繁忙になり異常な状態だったので、その水準と比較するのは難しいが、今の稼働率は落ちている。
- Q14: ユーロが4Qで100円にもどるとプラスにきくか？
- A14: 為替差損の面ではある程度ヘッジしているので大きくプラスには効いてこない。
- Q15: 中国は旧正月明けに急に需要が増える可能性はないか？また、その場合に在庫が足りなくなる可能性はあるのか？
- A15: 全社では中国は4Qで横ばいと見ている。在庫は落とすが回復時に足りなくなることはない。
- Q16: 円高のメリットはM&Aなどに活かすことができる。BtoCビジネスで成長ドライバーでもあるヘルスケア事業の今後の事業戦略はどう考えているのか？
- A16: 円高を追い風にM&Aは積極的に検討していく。また、ヘルスケア事業は中国をはじめ新興国で拡大をはかっていくので、今後様々な打ち手を着実に実行していく。将来オムロンの柱として期待していただきたい。
